

燃え続けさせる霊の火

レビ記六章

祭壇の火は燃やし続け、消してはならない。祭司は朝ごとに薪をくべて、その上に焼き尽くすいけにえを並べる。会食のいけにえの脂肪をそれと共に焼いて煙にする。(5)

朝ごとに全焼のいけにえを献げるべきことが語られています。これは祭司がイスラエルの民を代表して、主と民との関係をとりなすための国民的な献げ物を意味します。今日の聖句にあるように、朝ごとにいけにえを献げることにより、祭壇の火を絶やすことなく燃やし続けるべきことが強調されています。祭壇の火を燃やし続けることは、神との契約関係を常に忠実に保っていることのしるしでした。神が神の民イスラエルにこのように命じられたように、私たちも霊の祭壇の火を絶やらず、朝ごとに主とお会いするときに大切にしたいものです。「主よ、朝ごとにあなたはわたしの声を聞かれます。わたしは朝ごとにあなたのためにいけにえを備えて待ち望みます」(詩篇五三／口語訳)。朝のときを聖別し、主から新しい命をいただくこと待ち望む者たちを、主は豊かに養ってください。